

# 中国における

# 残留日本人研究の到達点！

佟岩・浅野慎一 監訳

A5判/上製/箱入/総九六二ページ

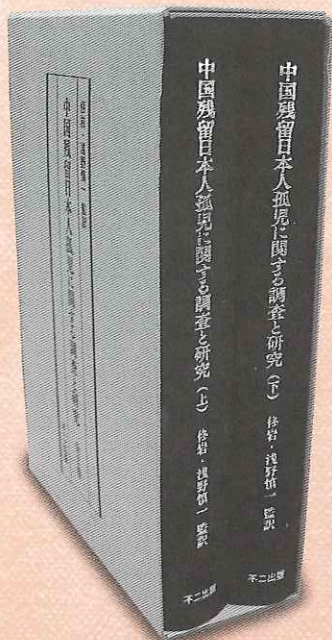
揃定価●本体三〇、〇〇〇円十税

二〇〇八年十二月刊

# 中国残留日本人孤児に 関する調査と研究「上・下」

## 全2巻

不二出版



本書は、中国で二〇〇五年に刊行された関亜新・張志坤著

『日本遺孤調査研究』(社会科学文献出版社)の全訳である。

公安機関の全面協力の下、一万部を超える個人档案記録を分析し、

三千八百余人の残留孤児と養父母への聞き取りを実施し、

中国における生活史・誌を総合的・立体的に解明した労作である。

彼らは戦後の中国で、学び、仕事につき、結婚し、子育てをし、

養父母一家とともに、自らの人生を創造し、生きたのである。

「残留孤児研究」の基本的認知枠に新たな知見を加え実像に迫る！



# 息を呑む 「中国残留日本人孤児」と 養父母の実像

井出孫六（作家）

日中国交回復後、今日まで三十六年にわたって五月雨式さみだれに帰国し得た「中国残留日本人孤児」の総数は二千五百余名に及ぶが、定着と自立の道は国の無策のもと困難をきわめた。二〇〇二年以来、全国十五ヶ所の地裁に起こされた「国家賠償請求」の訴訟には二千二百を超える原告が名を連らね、「中国残留日本人孤児」の肉声が法廷に、初めてたどたどしい日本語もしくは通訳付きの中国語で響きわたった。その訴えを最も敏感に受けとめた神戸地裁の原告勝訴の判決が、政府・与党の重い腰をあげさせることで、部分的な政策変更をもたらしたのは二、三世、三世、四世を含めると十万人とも推定される中国帰国者の明日には、歴史認識問題をはじめ多くの課題が積み残されたまま、「中国残留日本人孤児」の裁判闘争は幕を閉じざるをえなかった。

このような現状のなか、今回公刊の運びとなった関亜新・張志坤『中国残留日本人孤児に関する調査と研究』（原題『日本遺孤調査研究』）が、帰国者たちの国家賠償請求訴訟の場に間にあっていながら、わたしは切齒扼腕の思いに駆られざるをえなかった。原告たちの多くは幼くして中国文化の中で育まれたため、自らの歴史を語る日本語を持っていなかった。翻って本書を見れば、黒龍江省、吉林省、遼寧省、内モンゴル自治区各地の公安局に保管させていた「日本人孤児」三千八百余人の膨大な档案ケンアンの分析をベースにした聞きとりが満載されており、未だ語られることのない「中国残留日本人孤児」像が、想像の及ばない深い慈悲の心を持った養父母像とともに立体的に描き出されていることに、わたしは息を呑む思いにとらわれている。

## 第七章 身元の謎を解く

私はだれなのか、父母はどこにいるのか、どの国の人間なのか。身元にまつわる疑問は、人びとを容易に困惑させる。それはまた、残留日本人孤児がなんとかして明らかにしたいと願う切実な問題でもある。だからこそ、残留日本人孤児の身元の謎を解きあかし、認定することは、中日両国政府が肉親捜しを促進する際の最も主要な任務であった。

### 第二節 残留日本人孤児の身元認定

## 本書の特長

本書は、関亜新・張志坤著「日本遺孤調査研究」社会科学文献出版社（二〇〇五年）の全訳である。原書は、中国における残留日本人孤児研究の到達点を示す作品である。また、一九九五年に日本政府が創設した「平和友好交流計画」の一環として中国社会科学院中日歴史研究センターが立ちあげた「中日歴史に関する研究プロジェクト」に採択された研究成果でもある。

二人の著者は、遼寧・吉林・黒龍江の東北三省、および内モンゴル自治区東部四盟を中心に精力的な調査・資料収集を実施し、中国における残留日本人孤児の生活史・誌を総合的・立体的に明らかにした。

原書の最大の特徴は、档案原本を二次資料としたことにある。ここでいう档案とは、個々人の詳細な人事資料を指す。中国ではすべての国民一人ひとりに档案があり、共産党組織の人事部門・公安機関等がこれを厳重に管理している。档案は、自分で記載する部分、職場の人事部門等が作成する部分、そして公安機関による調査結果や周囲からの密告等からなる。本人の出身家庭、出身階級、学業成績、賞罰、政治運動・学習の態度、業務能力や日常生活の態度等、一切が記載されている。残留日本人孤児の場合、養父母に引き取られた経過、肉親捜しや親戚訪問・永住帰国の状態等に関する文書・記録も含まれる。档案は原則として非公開であり、本人も閲覧できない。しかも中国では、残留日本人孤児の管轄官庁は省レベルの公安厅であり、その情報へのアクセスは極めて難しい。こうした中で原書は、国家的なプロジェクト研究に採択された経緯もあり、政府・公安機関の全面協力を得て、档案を二次資料として活用することを許可された。残留日本人孤児の档案は、華僑等のそれと一括して管理されていた。そこで著者は一万部を超える档案を精査し、三千八百余人の残留日本人孤児の档案を抽出して、これを分析したのである。こうした研究は日本側では決してなせず、中国側でも空前の貴重な成果といえる。

（訳者あとがきより）



（本書口絵より）



原告たちの多くは幼くして中国文化の中で育まれたため、自らの歴史を語る日本語を持っていないかった。翻って本書を見れば、黒龍江省、吉林省、遼寧省、内モンゴル自治区各地の公安局に保管させていた「日本人孤児」三千八百余人の膨大な檔案の分析をベースにした聞きとりが満載されており、未だ語られることなかった「中国残留日本人孤児」像が、想像の及ばない深い慈悲の心を持った養父母像とともに立体的に描き出されていることに、わたしは息呑む思いにとらわれている。

る檔案を精査し、三千八百余人の残留日本人孤児の檔案を抽出して、これを分析したのである。こうした研究は日本側では決してなせず、中国側でも空前の貴重な成果といえる。  
〔訳者あとがき〕より



(本書口絵より)

## 第七章 身元の謎を解く

私はだれなのか、父母はどこにいるのか、どの国の人間なのか。身元にまつわる疑問は、人びとを容易に困惑させる。それはまた、残留日本人孤児がなんとかして明らかにしたいと願う切実な問題でもある。だからこそ、残留日本人孤児の身元の謎を解きあかし、認定することは、中日両国政府が肉親捜しを促進する際の最も主要な任務であった。

### 第二節 残留日本人孤児の身元認定

残留日本人孤児の身元の認定は、困難な、また入念さを必要とする作業である。なぜなら、残留日本人孤児の問題は戦争時に発生した特殊な歴史問題であるからだ。法的な観点からいえば、彼らは中国国民ではあるが、しかし日本人の血統を引いている。中国人の養父母が彼らを引き取ったとき、年齢が比較的大きい子どもは自分の

●第七章 身元の謎を解く

表 8-2 1970年代遼寧省における残留日本人孤児の肉親捜しに関する状況一覧\*1

番号	名前	日本名	出生年	中国居住地	時期	方式
1	劉桂蘭	木内操子	1934年	鉄嶺県	1974年	撫順の残留日本人だった中堀と櫻井に委託し、姉の早川美代子を確認。*5
2	邵玉芝	石塚久子	1934年	鉄嶺市	1979年	日本の厚生省を通じ、兄の石塚正治を確認。*6
3	陳玉珠	西本和代	1942年	開原県	1974年	汪清県の残留日本人・田玉芝が親戚訪問で来日した際、母親の西本種を確認。
4	羅井祥	深渡瀬正紀	1934年	昌図県	1977年	日本の鹿児島県の援護課に手紙を出し、叔父、叔母などを確認。*7
5	張栄閣	砂原毅	1938年	阜新市	1975年	何度も訪中した兄・砂原恵が個人的関係を通じ、弟を確認。
6	周津子	森田志津子	1936年	阜新市	1975年	在中国の日本大使館を通じ、母親・森田フサヨを確認。
7	張志秋	田中豊子	1941年	阜新市	1979年	父親・田中定雄が阜新市に肉親探しの依頼の手紙を出し、確認。
8	王彩萍	小坂智恵子	1941年	錦州市	1978年	趙更新を通じ日本の中村幸吉と連絡し、母親のチハルを確認。*8
9	呉玉庭	菅原満郎	1938年	錦州市	1975年	錦州市の残留日本人・島崎朝子の協力により、父の菅原宗助を確認。
10	張宝库	佐藤清作	1941年	鞍山市	1974年	1956年、姉の佐藤初美とめぐり合い、1974年に母親の佐藤菊を確認。*9
11	呉素梅		1941年	撫順市	1976年	1976年、林千鶴子とめぐり合い、親族と友人によって姉妹関係を確認。
12	張連生	豊田薫	1939年	撫順市	1973年	残留日本人の大森清子を通じ、母の斉藤キコを確認。*10
13	張淑珍	堀内和子	1943年	撫順市	1979年	日本にいる父親と4番目の叔母が中国政府を通じ、本人の消息を確認。*11
14	杜随成	蟻川博子	1941年	撫順市	1976年	残留日本人の櫻井七助を通じ、兄の蟻川英二を確認。
15	宮桂香	新倉京子	1937年	撫順市	1977年	残留日本人の櫻井七助を通じ、日本にいる4人の兄を確認。
16	王桂蘭	今岡泰子	1937年	撫順市	1975年	手紙を通して、肉親を確認。*12
17	張振車	西村満国	1941年	撫順市	1971年	叔母の中平二三枝を通じ、父の田井登志馬を確認。*13



上巻

総序  
序言

第一編 残留孤児の涙

第一章 日本の中国東北地方への移民

第一節 早期移民

第二節 武装移民

第三節 国策移民

第二章 日本の開拓団の滅亡に関する実録

第一節 「自殺」事件の犠牲者

一 東安駅事件

二 麻山事件

三 板子房事件

四 韓家事件

五 瑞穂事件

六 鳳凰事件

七 亜洲事件

八 小古洞事件

九 趙炮屯事件

一〇 高橋事件

一一 大泉子事件

一二 葛根廟事件

一三 双廟子事件

一四 哈拉黑事件

一五 来民村事件

一六 石碑嶺事件

一七 田家鎮事件

第二節 逃避行の途上における子どもの遺棄

一 松田ちえ「開拓残留妻の証言」

二 羽賀若枝「避難の途上」

三 水野百合子「私の恩讐」

四 岩崎「家族の惨死を回想する」

五 鈴木五三美「中国人の家庭に入った経緯」

六 川崎文三郎「青森縣開拓団避難状況」

第三節 難民収容所の難民

一 方正県における難民収容所の見聞録

二 チチハル市における難民収容所の見聞録

三 ハルビン市における難民収容所の見聞録

四 長春市における難民収容所の見聞録

五 瀋陽市における難民収容所の見聞録

六 撫順市における難民収容所の見聞録

第二編 孤児を育てた情

第三章 黒龍江省における残留日本人孤児の状況に関する調査

第一節 黒龍江省における残留日本人孤児の概況

第二節 黒龍江省における残留日本人孤児と養父母のインタビュー記録

一 育ててくれた恩は一生忘れられない——残留日本人孤児・福地正博

二 養父母の恩と愛——残留日本人孤児・小林八重子

三 中国、私の第二の故郷——残留日本人孤児・森実一喜

四 二重の父母、両国の情——残留日本人孤児・戸田雄二郎

五 私は中国で大きくなった——残留日本人孤児・宮沢照子

六 私の特別な経歴——残留日本人孤児・王洪徳

七 苦難が尽き、幸福が来る——残留日本人孤児・田根文江

八 日本の姉妹、中国の情——残留日本人孤児・麻生勝子

九 私は中国人民の医者である——残留日本人孤児・辺福光

下巻

第三編 肉親捜しの旅

第七章 身元の謎を解く

第一節 残留日本人孤児の身元認定

第二節 残留日本人孤児の認定の事例

一 吉林省白城市の残留日本人孤児・韓東福の身元認定

二 吉林省洮安県の残留日本人孤児・張振英の養父の証明資料

三 遼寧省大連市の残留日本人孤児・王鉄民の身元認定

四 遼寧省丹東市の残留日本人孤児・原道平の身元認定

五 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・楊岱玲の身元認定

六 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・李永財の身元認定

七 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・王世学の身元認定

八 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・韓桂香の身元認定

九 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・程雲多の身元認定

一〇 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・王洋の身元認定

一一 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・姜鳳雲の身元認定

一二 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・楊建言の身元認定

一三 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・朱淑文の身元認定

一四 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・宋玉寧の身元認定

一五 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・于淑珍の身元認定

一六 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・郭玉華の身元認定

一七 遼寧省瀋陽市の残留日本人孤児・顧玉鳳の身元認定

一八 遼寧省撫順市の残留日本人孤児・王志の身元認定

一九 遼寧省撫順市の残留日本人孤児・劉忠蘭の身元認定

二〇 遼寧省撫順市の残留日本人孤児・郭双喜の身元認定

二一 遼寧省撫順市の残留日本人孤児・曹桂珍の身元認定

二二 遼寧省撫順市の残留日本人孤児・方俊芹の身元認定

二三 遼寧省撫順市の残留日本人孤児・佟桂珍の身元認定

二四 遼寧省丹東市の残留日本人孤児・馮玉臣の身元認定

二五 遼寧省阜新市の残留日本人孤児・王淑清と王淑榮の身元認定

二六 遼寧省鉄嶺市の残留日本人孤児・陸文璞の身元認定

二七 遼寧省鞍山市の残留日本人孤児・馬慶和の身元認定

二八 遼寧省鞍山市の残留日本人孤児・範揚の身元認定

二九 遼寧省海城市の残留日本人孤児・郭進財の身元認定

三〇 遼寧省大連市の残留日本人孤児・張桂花の身元認定

三一 遼寧省大連市の残留日本人孤児・閻成徳の身元認定

三二 遼寧省大連市の残留日本人孤児・王連双の身元認定

三三 遼寧省大連市の残留日本人孤児・王惠珠の身元認定

中国残留日本人孤児に関する調査と研究「上・下」全2巻

概要

監訳 ● 佐岩 龍谷大学非常勤講師・浅野慎一（神戸大学教授）

原著 ● 『日本遺孤調査研究』関典新・張志坤著 社会科学文献出版社（二〇〇五年刊）

体裁 ● A5判・新組・上製・箱入

上巻Ⅱ口絵20頁＋本文518頁

下巻Ⅱ本文424頁／総962頁

揃定価●本体二〇、〇〇〇円＋税

ISBN978-4-8350-6178-8

推薦●井出孫六（作家）



（本書口絵より）

【上】

第一編 残留孤児の涙

第一章 日本の中国東北地方への移民

第二章 日本の開拓団の滅亡に関する実録

第二編 孤児を育てた情

第三章 黒龍江省における残留日本人孤児の状況に関する調査

第四章 吉林省における残留日本人孤児の状況に関する調査

第五章 遼寧省における残留日本人孤児の状況に関する調査

第六章 内モンゴル東部地区における残留日本人孤児に関する調査

【下】

第三編 肉親捜しの道

第七章 身元の謎を解く

第八章 肉親捜しへの道

第九章 帰国の夢の実現

第四編 友好の架橋

第一〇章 ちっぽけな草は、春の陽ざしに報いる

参考文献／あとがき／訳注／訳者あとがき

\*内容案内送呈

関連図書のご案内

満洲泰阜分村

——七〇年の歴史と記憶

満洲泰阜分村七〇年の歴史と記憶 編集委員会編

長野県泰阜村発行

蘭 信二編集統括

本書は開拓団員20数名の手記と聞き書き、研究者の学術論考、移民・引揚・帰国支援関連の村役場資料、丹念に作成された年表と名簿、さらに「満洲泰阜分村」後世に伝う血類の記録」を一部再録した労作。

● A5判・上製・1,040頁  
定価Ⅱ本体8,000円＋税

日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学

蘭 信二編著

本書は、朝鮮・満洲・樺太・台湾・南洋を舞台として、複雑に展開された《人口移動》の諸相を、植民地という地政学的な支配の構造が様々な要因やベクトルと互いにかかっているのかを、国際社会学の視角から総体として捉えようとしたものである。

● A5判・上製・898頁  
定価Ⅱ本体8,000円＋税

●表示価格はすべて税別。

不出版

T113・00023  
東京都文京区向丘1-2-12  
電話033812-4433  
ファクシムル033812-4464  
振替0016002940884